

【特集】ものづくりコンテスト（建築科）

= 主 旨 =

平成12年頃の工業はバブル景気がはじけてから、不況続きで先が読めず、高校進学者は普通科志向が強くなった。また、少子化、製造業離れにより伝統的技術・技能の継承が危ぶまれ、工業高校の衰退が危惧された。そこで、起死回生を期して、ジュニアマイスター制度と並行して始まったのが本大会の主旨である。

= 歴 史 =

平成13年度に第1回大会を東京会場で、北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・九州の9ブロックからなり、競技種目は4系（機械・電気・科学・建設）5部門（旋盤・電気工事・電子回路組立・科学分析・木材加工）でスタートした。第2回から自動車整備、測量が追加され、今年度の第19回大会は近畿会場で、4系7部門で行われる。

木材加工部門は第1回大会から行われている。課題は、プランター（植木鉢）→小屋組→四方転びに変化している。（※今年度は、昨年度より高度な技術が必要である。）

= 本校上位記録（木材加工部門） =

第3回優勝 第7回優勝 第8回優勝 第11回優勝 第15回2位

工業科通信

技

わざ

3号

2019年6月3日(月)
球磨工業高等学校
工業科

熊本県高校生ものづくり大会 ～「木材加工部門」～

= 内 容 =

「四方転び」原寸、削り、墨付け、加工、組立

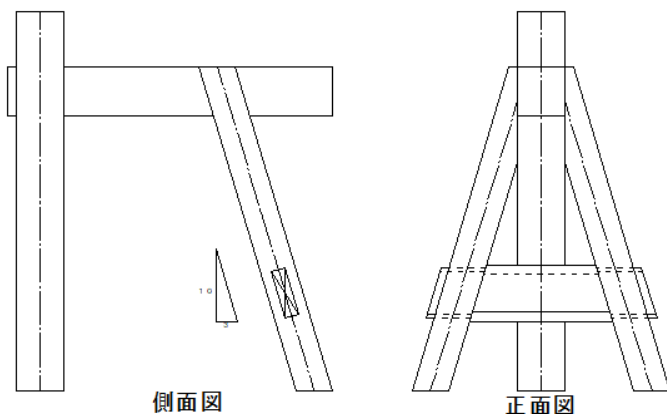
競技時間： 1日目 45分(原寸) 2日目 3時間

競技内容： 図面を描く→木材を削り→木材に線を引く
→^{のみ のこ}鑿・鋸で作る→組立

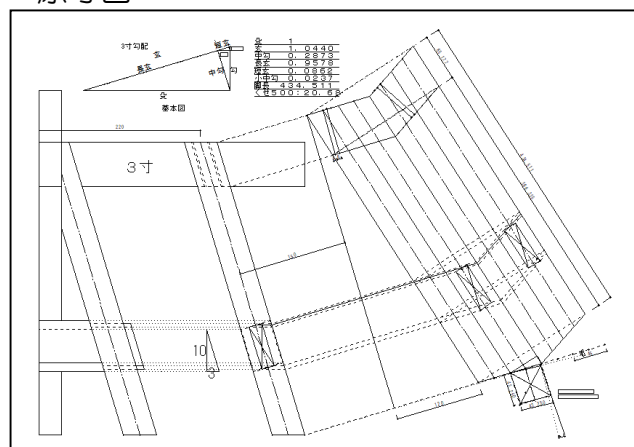
ポイント： 木材が正確に削れているか
接合部に隙間がないか
寸法通りにできているか



課題図



原寸図



【建築科代表生徒：3AT 鳥越 楓樹 君】

今年から課題が変わり、四方転びになりました。これまで、木材を削る時の角度を間違えないようにしたり、鑿や鋸を使って、ほぞ穴や^{あり めぎ おぎ}蟻の女木と男木の精度を上げて、収まりが良くなるように練習してきました。

昨年の先輩方の分まで頑張り、県大会を家具工芸部門と共に制し、九州大会で勝ち上がり、全国大会に出場できるように、日々努力し頑張ります。

熊本県高校生ものづくり大会 ～「家具工芸部門」～

=内 容=

「イーゼル制作」削り、墨付け、加工、組立

競技時間： 2時間30分

競技内容： 木材を削り→木材に線を引く

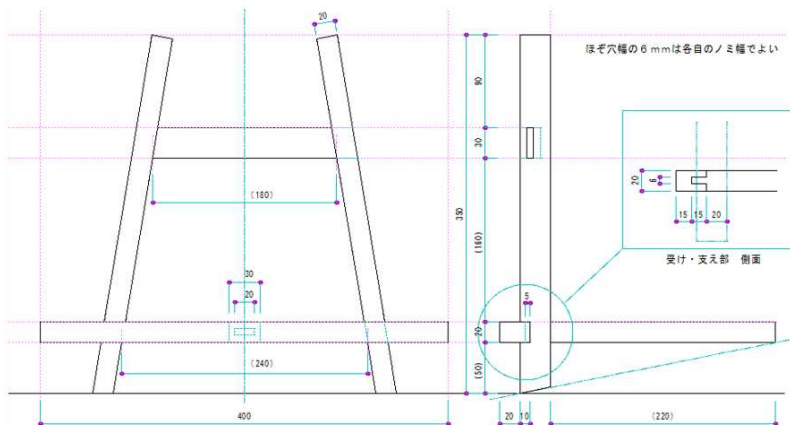
→^{のみ}鑿・^{のこ}鋸で作る→組立

ポイント： 木材が正確に削れているか

接合部に隙間がないか

寸法通りにできているか

課題図



この競技は、九州大会までしか実施されません。本校生徒では、過去に県大会を制し、九州大会に出場して、最優秀賞を獲得した実績もあります。その時の課題は「フレーム制作」でした。

今回の課題は、昨年度と同様で「イーゼル制作」です。木材加工に比べて構造の難易度が易しいため、完成精度が重要になってきます。練習を繰り返して、完成精度を上げて頑張っています。

【建築科代表生徒：2AT 久保田 維 君】

これまで、作業工程を制限時間内に加工することや、接合部に隙間ができないように取り組んできました。特に難しいのは、支え部のところです。部分練習では、そこを中心に頑張ってきました。

また、良く切れて仕上がりがきれいになるように、道具の鑿や^{かな}鉋の刃を研いで、手入れも気を抜かないように頑張ってきました。本番では、悔いの残らないように頑張ります。

【建築科代表生徒：3AT 長谷川 賢琉 君】

今までの練習では、制限時間内で加工、仕口、^{しくち こうばい}勾配の精度を高めることを取り組んできました。仕口を加工する時の勾配は、感覚で加工しているので、その感覚を体に染み込ませるために、何度も加工練習をしています。

昨年、出場した時には、良い成績を残すことができなかったのですが、今年こそは県大会を制し、九州大会で1位が取れるように頑張ります。